



←私の田舎では柿木だったが、どういうわけか矢切の、むかしからある民家には柑橘類の木が植えてある。だからといって、取って食うわけでもない。

→また寒波がやって来るといいますが、お客さんはあい変わらずだ。

舟頭さんは朝から落ち着かない。娘が中東のアブダビ経由でスペインのグラナダに出かけたからだ。

舟頭さんには三人の子どもがいる。上が長男、二番目が長女、三番目が次男だ。舟頭さんにいわせると、その長女が変わっていて、まだ大学生だが中国のへんぴな田舎へ出かけたり、かとおもうと上海だったり、そして今度はスペインだという。

それも聞いたことのないような航空会社でアブダビなどという中東の都市を経由して行くというから父親としては落ち着かない。

もつともかくいう舟頭さんが若いころはオートバイに乗って信州や東北の田舎道を走りまわっていた。アメリカにも出かけた。レンタカーを借りて宿の予約もせず、モーターを利用して西海岸からラスベガスなどをまわった。

「そりゃあ娘が父親に似たんだよ」  
 そういつて私は舟頭さんをなぐさめるが、さして効果はない。

「あいつは女の子じゃない。自分が男だでも思ってるんじゃないの」

## 今週のクマ

→ときおり棧橋までやって来てお客さんを見送るクマ。



→1日の夜から2日にかけて、ふたたび雪が降った。今度の雪は先週の雪と違って早く解けた。椿の花も寒そうだ。



舟頭さんはそういうが、私から見ると  
そは思えない。

なんだかんだいって、たとえば成人式にはちゃんとして振り袖を着たし、あるときなんか売れ子タレントの芦田愛菜（あしだ まな）が渡しに乗ってやって来たときなど、わざわざ棧橋まで来て人垣の後ろからそつとのぞいて見ていたように、やっぱり女の子が気になるのだ。

そこにヤッさんがやって来て、

「女の子は父親に似るっていうから、舟頭さんに似たんじゃないの？」

すると舟頭さんは、

「オレは学生のころって国内をウロウロしていただけだよ」

すかさず反論する。

「そこが昭和の人だよ。平成生まれの私たちは違うんだよ」

そう私がいうと、

「オレも昔人間になってしまったのかなあ。そういうことなのか……」

いかにも残念そうにいう舟頭さん。

いまや三十歳以下の人間はすべて平成生まれだ。昭和生まれの人間はやがて、我々がかつていつていたように、古い人間になってしまったのだ。